



させほ夢大学

発行●公益社団法人 させほ夢大学
編集委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させほ夢大学会報

No.285 (2019・10)

令和 元年度
第7回

2019年 10月17日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後5:30
●夢のひろば 午後6:00
●講 演 午後6:30

今回の講師は、スポーツ界の話題になる出来事が起こる度に、テレビ各局よりコメンテーターとして引っ張りだこの玉木正之氏です。

玉木氏は、京都洛星高等学校在学時代にはバドミントンでインターハイに出場、1972年4月東京大学教養学部に入學され、在学中から東京新聞に音楽や映画評などを執筆されました。後、ミニコミ出版の編集者を経てフリーの雑誌記者として小学館「GORO」の編集に関わり、平凡パンチ・朝日ジャーナル・週刊現代等の雑誌に執筆され、毎日放送・TBS・NHK・東海テレビなどでコメンテーターとしても活躍されています。玉木さんはスポーツ



評論家として有名ですが、小説も書いておられ「京都祇園遁走曲」は、NHKテレビでドラマ化されています。著書も圧倒的にスポーツ関係が多い中、音楽や映画の評論、翻訳等幅広く手がけておられます。また、立教大学や筑波大学の大学院非常勤講師も務められました。

そのような中、東京オリンピック・パラリンピックの開催まで1年を切った大変タイムリーな時期に「オリンピックから世界の未来が見える」という演題で講演され、オリンピックをあらゆる角度から見つめられる私達は、幸せだと思います。

どうぞご期待ください。

講 師 ● スポーツ文化評論家 たまき まさゆき 玉木 正之氏

テーマ・オリンピックから世界の未来が見える



次回のご案内

- と き / 11月28日(第4木曜日)
- 講 師 / ハープ奏者 いけだ ちくこ 池田 千鶴子氏
- テーマ / フリーインプロヴィゼーションからのメッセージ ~その先へ~

●東邦音楽大学ピアノ科卒業後、武蔵野音楽大学ハープ科卒業。国内外で「命の重さ・素晴らしさ」への思いをハープに託し、コミュニケーションと癒して積極的な社会活動を続けている。97年JICA25周年記念プログラム演奏。2000年カーネギーホールでのソロ演奏・ヒーリングサウンドコンクール・祈りのフォーラム、NYテロ1年レクイエム(以上アメリカ)、平和への祈り(ローマ)でのコンサート実施。国連NGOのISSJ(日本国際社会事業団)評議委員を務める。

玉木 正之 氏のプロフィール

●1952年京都市生まれ。東京大学教養学部入学後、在学中より東京新聞で執筆開始。以後、雑誌「週刊ポスト」「週刊現代」「GORO」「Number」「文藝春秋」「新潮45」や、朝日・読売・毎日・日経等の新聞で執筆活動。日本で最初のスポーツライターを名乗る。「音楽の友」「CDジャーナル」等で音楽評論、映画評論も手がける。日本福祉大学客員教授。「スポーツとは何か」「スポーツ解体新書」「クラシック道場入門」「オペラ道場入門」等著書多数。訳書にR・ホワイティング「ふたつのオリンピック」など。



させぼ夢大学講演会

心をのせたコミュニケーションが人生を豊かにする 講師/福澤 朗氏



福澤 朗氏



高く・大きく・ゆっくりと

西海市西彼町 瀬戸崎 齊

割り箸を横にくわえて「ラジルの：」と発声練習。繰り返してもうまくできなかつたが、講演の中でとても印象に残る体験学習だった。

今回の講演会は、このような学習や発声練習ありで、大変楽しく時間の経過を忘れるほどであった。そんな中に学ぶことが数多くあり、とても有意義であった。これは講師の優れた話術と内容の組み立て方によるものだと思う。講演は、終始一貫実践的で熱気あふれていた。
伝える技術の話そうという
ことで講演の中核に入られた

■福澤氏は、流石その道のプロだと感心することしきり。話し方、聴き方の「コツ」について実演を交えて、ユーモラスにわかり易く話された。すぐにも応用できる有意義な内容だった。今後に活かして、コミュニケーション能力を高めていきたい。
佐世保市南風崎町●横山 春美

■多人数の合唱による幕あけ。1時間目、2～4時間目と簡にして明解なお話。実行出来るかは、私の問題。続いた夏の酷暑の記憶を吹き飛ばさせてもらったひとときでした。
佐世保市東浜町●池田 ヨシ子

■9月19日 佐世保市九十九島の日に、九十九島に因んだ曲で3団体の合唱をまとめられた坂井先生に感動いたしました。福澤さんの立て板に水のアナウンスには日頃感心していましたが、割り箸を使った発声の訓練で表情筋を鍛え、高・大・遅+間と聴、心を込めたコミュニケーションに励みたいと思います。勉強になりました。
佐世保市大和町●宅島 富士彌

■面相を変えながら熱心に実習をしている同窓生の横顔しか見られなかったのは残念でしたが、心をこめた、心をのせた、心配りのできるコミュニケーション術を会得すべく日々精進します。
佐世保市光月町●国松 仁志

■私は60数年間、学校や職場と社会の中で、育って来ましたがこの様なコミュニケーションの教育を受けた事がありませんでした。実技も交えた講義の内容は、笑ひも誘ひ、楽しく実になる時間でした。これなら私もできると確信しました。レッツトライ!!
佐世保市原分町●吉村 博

■今日は入口で割り箸を配布しています。エッ?講義で、どういふ風に使うのかしら…。まさか、口にくわえて発声練習をするのだとは思っていませんでした。本当に滑舌が良くなるのかと不安でしたが、皆様と10回15回やっていると、ホント。一人で風呂で練習です。
佐世保市赤崎町●木村 典子

■白のドレスで出てこられた、コーラスの女性の方々素敵でした。今日は、福澤氏の身振り手振りで、笑って楽しく学べたコミュニケーションの授業でした。また来てください。
佐世保市木風町●西 照美

■たまに、人前で短時間の話をする機会があり、テーマに沿って、一番伝えたい1点に絞り込み、その中でも特に強調したい言葉の直前に間をおいて言い切るように心掛けています。これに、福澤さんから教わった「高く、大きく、ゆっくり」を取り入れて、聞き手に分かり易い話が出来ようになりたいと思っています。
佐世保市早苗町●牧 千尋

が、まずは高い音、低い音から話を進められた。それをご自身の体験を「羽田から日本航空で来ました」を例にしてお話しされた。大事な事、強調すべき事は、高い音でと。これは防災にも役立つとも言われる。

そして、大きい言葉(年寄り)に伝える大きい音)と小さい言葉。それに表情筋(豊かな表情)を使う。これは感情が伝わるもので、使わないと衰えてしまうと言われる。また、早いと遅いについて。ゆっくりと「間」を置く事の大切さについても言及された。

終わりに「聴く」について
：「耳を大きく目を皿にして

心で聞く」と、聞き方について当を得た解釈をされたのも面白いと思った。伝えることの基本は、大きく、ゆっくり(心を込めて)だと思ふ。それに間が入り、表情が加われば申し分ないことである。

日常生活の中で、言葉がうまく伝われば人間関係はより良く改善され、生活に潤いが生じ、それがお互いの人生を豊かにすることに繋がるものと思ふ。

発声練習とコミュニケーション技術
佐世保市黒髪町 川副 箒子
福澤さんは、相手に大事な

ことを伝えるためにはコミュニケーション技術が必要で、その基本的な4つの要素を具体的に話されました。
伝えたい言葉は高い声で、大きく、ゆっくり、間をおいて話すこと。例えば講演には何で来られましたかと聞かれたら「羽田から長崎空港まで日本航空で来ました」というように発声します。伝えたい言葉の「日本航空」は大きな声でトーンを高く、「日本航空」の前で一呼吸おいてゆっくり発声します。そうすると相手に伝えたい言葉がよく伝わるという事を学びました。コミュニケーションの講座は、仕事関係で数回受けた記憶があ

事関係で数回受けた記憶があ

夢のひろば

◆日時／10月17日(木) 午後6時～6時20分

◆演目／津軽三味線演奏

◆出演／^{きのしたつねあり}木下恒存 木下三絃会

◆出演者紹介

諫早市生まれ。二十歳より津軽三味線の修行をかさね、津軽三味線全日本大会B級優勝他、数多くの賞を受賞。平成18年「黒川桃太郎賞」を受賞し、名実共に津軽三味線の若手伝承者として注目される。

現在、諫早、福岡に教室を開く。

◆曲目

○津軽じょんから節

全国的に有名な津軽じょんから節。唄の前奏部分が伸びて三味線の独奏曲になったといわれています。曲弾きといえばじょんから節をベースにしたものが多く、百人いれば百通りのじょんから節となります。即興演奏の要素が最も強く、複雑な技巧も取り入れやすい曲です。

○津軽あいや節

九州天草の「牛深ハイヤ節」に代表される一連の「ハイヤ節」が日本各地に伝えられ、佐渡では「おけさ」、東北では「はいや節」・「あいや節」となりました。

○秋田荷方節

秋田荷方節は、秋田県下で、かつて芸人達がステージで歌ってきた名曲の一つです。曲弾きを思わせるような華麗な三味線に乗せて、朗々とかつ艶やかに歌い上げられます。津軽三味線に対抗して作られた伴奏ともいわれています。



花の森コーラス、コール・トワニー、リリコ・コーロの皆さんによる合唱

「青々しく初々しい」 ジャストミート!!

りますが、こんなに熱心に参加者全員で発声練習をした記憶はありません。
最後にもっと相手に伝わりやすくするには滑舌をよくすることが大事だと話されました。確かに年と共に滑舌が衰えていく要素が多くなっていることに気づきました。滑舌を良くするために表情筋や口輪筋を鍛え、「ひまわり」と眉をあげて発声し、口輪筋を鍛えるために割り箸を口に挟んでカルメンを踊るが如く気持ちを高ぶらせ発声練習をしました。難しいものでした。滑舌よく相手に伝えたいことを伝えるには、年を重ねるほど努力が必要なることを改めて感じました。

講演を聴かれた感想をお待ちしています!

※締め切りは講演日の1週間後(必着)
※宛先は、させほ夢大学事務局まで

ブラジル人のミラクルピラ配り
北松浦部佐々町 法本 幸子

今日の夢大学は、「心をのせたコミュニケーションが人生を豊かにする」をテーマに、テレビでお馴染みの楽しいキャラクター福澤朗氏。さすがプロ。コミュニケーションはこうあるべしとジャストミート!!な講演でした。

一時限目から四時限目まで実践とレクチャー、すぐに使えるコミュニケーション力を高める為の訓練法が満載。目から鱗の飽きさせない楽しい授業でした。

先ず心をのせて相手に伝えるためのテクニックのいろはを問題形式で学び、それに間が加わればジャストミート!!人の第一印象を決定づける

声や言葉、話し方もテクニカルの面だけでなく、心が伴ってこそそのコミュニケーションの極意だろう。間の取り方、表情の作り方、眉毛の使い方、場の空気を詠むペーシング等々、全部は無理でも一つ一つをクリアしていけば、印象も少しは良くなるかもしれない。

早口言葉「ブラジル人のミラクルピラ配り」。これを割り箸を口にくわえ何度も繰り返して、その後は滑舌が良くなりジャストミート!!

口角を上げ、コミュニケーション力を上げ、人生を豊かに切り切りたいという気持ちにジャストミート!! 福澤先生ありがとうございます。

「聞く」と「聴く」

佐世保市大宮町 吉次 公子

三チーム合同のコーラス、いいハーモニーで会場をつつみました。伊能忠敬作詞の九十九島、初めて耳にした曲でした。素敵ですね。声を出すことは、健康にも本日の講師福澤朗先生のお話にも共通する、コミュニケーションに役立ちそうと思いました。

壇上に立たれた講師の軽快な動き、そしてアナウンサー、司会者として活躍中の話術の巧みさについて引き込まれました。

「聞く」と「聴く」との違い等さほど考えず、口唇の筋力をきたえる事の大切さなど、今まで全く無関心でした。入場の際、渡された割り箸。一体何に使うのだろうと思っていました。これが筋力をきたえる道具で、割り箸をくわえての実習。これならお茶碗を洗いながら出来るな。話し方一つでまわりの方々と豊かにコミュニケーション出来る事が、人生の後半で一番大切な事かもしれません。御活躍をお祈りいたします。

濃厚な四時限

佐世保市京坪町 太郎浦 幸子

花の森コーラス、コール・トワニー、リリコ・コーロのしとやかな歌声に癒された後、フロアから大きな声で呼びかけながら走ってのご登壇

愉快なおしゃべりプロの



ジャストミートな
爆笑タイム!!

に、会場は一気に湧いた。「心をのせたコミュニケーションが人生を豊かにする」とのテーマで講演を4ブロックに分けて進められた。
(1)話し方(伝え方)は高く、大きな声でゆっくりと間を取りながら伝達能力の拡大を図る。
(2)アイウエオは「日本語の中で一番大事」と言われ、フロアと一緒に発声練習となった。
(3)表情筋を十分に使って相手に伝える。感情が相手に伝わらないと誤解を招く。ただしビジネスではボーカルフエイスが有効とも。聴き方は聞くより聴く(リッスン)にウエイトを置く。耳を大きくし、目を皿のようにして聴く。
(4)「滑舌がいいと聞き取りやすい。リーダーは滑舌がよい」と。舌筋と口輪筋の筋トレをフロアの全員が割り箸を銜えての発声練習に応じ、終始笑い声の絶えない楽しいひと時を過ごさせて戴いた。

地中に眠る 戦国物語

〈Vol.7〉

墓石に秘められた戦いの実情 〔井手平城〕

佐世保市教育委員会
松尾 秀昭

「対岸の火事」と類似語の「川向こうの火事」とは、自分に少しも影響がないこととの例えであるが、戦国時代の三川内では、「川向こうの火事」はただ事ではない一大事だった。

三川内は、戦国時代の終わり頃には平戸松浦氏の領地であったが、小森川を挟んだ対岸は大村氏となっており、平戸松浦方の井手平城と大村方の塩浸城が、目と鼻の先に対峙していた。平戸松浦氏の南端を守るための井手平城は、早岐から三川内に向かう国道脇にある城持山薬王寺の裏手の丘に築かれた城である。

1586(天正14)年、井手平城主の岡甚右衛門は、大村・有馬氏等の連合軍の夜襲にあい、籠城の甲斐なく落城している。この戦い



井手平城遠望

で岡甚右衛門と長男、次男そして副将の堀江大学など300人が戦死したと伝えられている。

城跡には大きな平場が2ヶ所あり、本丸は直径約50mの二重の土塁に囲まれ、もう一つの岡甚右衛門の屋敷があったと思われる平場は、土塁や空堀、水堀で強固に守られ、今もその姿を留めている。

発掘調査では、岡甚右衛門の屋敷跡とされる平場周辺から中国製の茶碗や皿、小刀、鉄鏃、刀の鏢、鉄砲玉のほか、筭と呼ぶ武士が髪を整える道具、火鉢や炭壺、調理に使う播鉢や引き白など豊富な遺物の出土状況から、この城は落城の際に火災にはあつておらず、しばらくその建物は残って

いたようである。さらに、軒先で割れて出土した遺物が元の形へ繋ぎ合わせることでできることから、落城後に建物から茶碗などを投げ捨て、家財道具を整理した人間模様が浮かび上がった。

では、この井手平城でどれくらい兵士が戦ったのか？ 残念ながら、その問いに対する直接的な答えは見つからないが、戦死者の人数は薬王寺の境内地にしっかりと残されている。

薬王寺は井手平城の戦いの後、平戸藩主の松浦鎮信が戦士者を弔うために建てた寺で、境内地には1616(元和2)年に遺族が建てた城主岡甚右衛門の供養碑が佐世保市の文化財として保存されている。その供養碑をさらに奥へ進むと、ひっそりともう1つの供養碑があり、その基礎部分には岡甚右衛門以下21名の名前が刻まれている。

大河ドラマや映画では、両軍何百人の兵士がまみえる合戦が描かれるが、地方の小さな戦いは、違った戦い方だったのかもしれない。この城での戦いの後、佐世保地域では最後の戦いとなる広田城の戦いへ、その舞台は移ることとなる。

事務局だより

★福澤朗さん、ありがとうございます
ございました

総勢90名の女声合唱団に続いて登場された福澤さん。客席からのご登場に、会場は大いに沸きました。

伝え方について技術的な方法を学ぶことで、心をのせたコミュニケーションがより可能になるとのこと。講演ではまず、伝えたいことの40%しか伝わらないという相手への「伝え方」について、注意すべきポイントをいくつか話されました。続いて、正しく伝えるための発声法や表情の作り方を話され、皆さんと共に行った小道具を使ったの練習では、会場一体となって大変盛り上がりました。

素顔の福澤さんもテレビで拝見するとおり、丁寧で心配りの素敵な方でした。

★させば夢大学学生証提示での割引特典について

当大学学生証をアルカスSASEBOチケットカウンタで提示されますと、1会員で1講演「2枚まで」一般料金から「5%割引」で購入できます。

★学生証について

①講演会にご本人が欠席の場合は、学生証があれば代理出席が可能ですが、必ず学生証を貸与してください。学生証がない場合は、残念ながら入場をお断りせざるをえませんので、ご注意ください。

②当日に学生証をお忘れの方には、「ご本人に限り」当日のみ有効の学生証を発行します。ただしご本人の確認をさせていただきますので、よろしくお願致します。

★マナーについて

①座席取りはおやめください。

②講演や演奏中の私語は慎んでください。

③スマホや携帯電話等の「電子機器類の電源は、確実にお切りください」

④写真撮影及び録音・録画は禁止です(著作権法の関係上)。

★優先者席について

1階の最後尾列に、車イス利用等の方専用の優先者席を用意しています。優先者席は限られていますので、ご希望の方はできるだけ早めにご来場頂きますようお願いいたします。

講演を聴かれた感想をお待ちしています！

600字程度にまとめて、させば夢大学事務局まで、郵便・FAX・メール等でお送りください。締切日は講演日の1週間後の木曜日(必着)です。